

会 議 名	令和5年度 第2回知立市保健対策推進会議
日 時	令和6年3月7日（木） 14:00～15:30
場 所	知立市保健センター 2階 講座室
事 務 局	こんにちは。本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。令和5年度第2回知立市保健対策推進会議を開催いたします。私は、本日の進行を務めます健康増進課長の浦田と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。本日の推進会議にあたりまして事前に、知立市歯科医師会代表花井光造氏、刈谷公共職業安定所代表吉田浩子氏、薬剤師会代表新美様より欠席のご連絡をいただいております。 また、衣浦東部保健所長の丸山委員の代理として杉原孝子(すぎはらたかこ)氏の出席となりますので、報告いたします。従いまして、本日の会議は保健対策推進会議条例第6条第1項による半数以上の出席者があり、定数に達していることをご報告させていただきます それでは、次第にしたがいましてはじめに知立市長より、ご挨拶申し上げます。
市 長	皆様には、お忙しい中、本日は知立市保健対策推進会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。日頃は、健康増進事業に多大なるご理解とご協力を賜りありがとうございます。 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業におきましては、今年度はハイリスクアプローチにおいて糖尿病性腎症重症化予防事業、口腔指導事業を新たに加え実施をさせていただいているところであります。今後も健康づくりと介護予防を一体的に推進することで、高齢者の皆様の生活の質の向上と健康寿命の延伸に向けて取組を進めていく予定であります。 母子保健につきましてははにじいろニコニコ事業として妊娠中から出産、子育て期までの切れ目ない子育て支援の充実を図っています。特に妊娠、出産において妊娠8か月アンケート及び面談、産後ケア事業の訪問型追加など赤ちゃんを迎える家庭に寄り添った支援に取り組んでおります。これからも切れ目のない子育て支援を行ってまいりますのでお力添えいただきますようお願いいたします。 今後も、子どもから高齢者まで市民の一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組んでいただけるよう皆さまにもご協力をいただき、今後もよりいっそう健康づくりに関する事業展開を強化していきたいと考えております。 令和6年に改訂します「第2次健康知立ともだち21計画、第2次知立市食育推進計画、知立市こころ応援計画」については、次期計画策定に向け、アンケート調査の実施、また、最終評価を実施したところであります。本日はその状況と次期計画策定に向けたご意見を頂けると幸いです。 この会議は、市民の健康づくり等に関する事項を調査審議していただく場となっておりますので、委員の皆様方からは、それぞれの立場で率直な、忌憚（きたん）のないご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。 最後に、本日ご出席の関係各位のご健康とご活躍を祈念するとともに、一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
事 務 局	続きまして内容に入る前に簡単に本日の資料を確認させていただきます。本日席に配布させていただいたものとしたしまして、本日の次第、配席表、委員名簿、諮問、今後のスケジュール案、 事前配布致しました資料として、協議事項1の資料が資料1となっております。 2の資料については「第2次健康知立ともだち21計画」関連事業 資料2、「第2次知立市食育推進計画」関連事業資料3、「高齢者の保健事業介護予防の一体化実施事業」資料4、「知立市こころ応援計画」 関連事業 資料5。また、「報告事項として新型コロナウイルスワクチン接種事業の現状および今後の取り組みについて」(資料6)が本日の資料となっております。不足がありましたら、後ほどでも結構ですのでお知らせください。
司 会	それでは最初に諮問を行います。市長から会長へよろしくお願いいたします（諮問読み上げ）。 知立市保健対策推進会議条例（平成26年3月26日条例第12号）第2条の規定により、下記の事項について貴会

議の意見を求めます。

1. 下記計画の改定について

(1) 第2次健康知立ともだち21計画

(2) 第2次知立市食育推進計画

(3) 知立市こころ応援計画

上記の3計画について、令和6年度までの計画に対し、新たな次期計画の改定を求めるものです。

それではこれより、次第の協議事項に入りたいと思いますが、本会議の資料配布時に「事前質問票」をお願いさせていただきました。今回の協議事項に対する質問はございませんでした。

これより、協議事項1に入りたいと思います。つきましては、ここからの進行は会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

会 長 (挨拶) 会長の宮谷です。よろしくお願いいたします。

今回会長職をさせていただいておりますが、任期が今年6月で終了となり6月からは宮本先生に代わりますのでよろしくお願いいたします。

会 長 協議事項1「第2次健康知立ともだち21計画」「第2次食育推進計画」「知立市こころ応援計画」のアンケート調報告書について事務局より説明をお願いします。

事 務 局 (資料に基づき、事務局より説明)

資料1 アンケート結果について

資料の5ページ目以降につきましては、アンケート結果を設問ごとに記載しております。94ページ目以降は小学生向けのアンケート、125ページ目からは園児保護者向けのアンケートとなっており、この結果をもとに次期計画の策定をしていくこととしております。

委 員 食育の定義を改めて教えていただきたいと思います。アンケートを取られたときに、「食育とは」ということを示してアンケートを取られたという事でしょうか。

具体的な項目以外に、若い世代に関心を持ってもらっているかという事を知りたかったという事で承知しました。

会 長 それでは、次に協議事項(2)各計画の最終評価について事務局より説明をお願いします。一体化事業については現計画には記載がありませんが、令和3年度から開始した項目でありますので、最終評価という事で、ここで一緒に報告させていただきます。

事 務 局 (資料に基づき、事務局より説明)

第2次健康知立ともだち21計画最終評価報告書につきまして説明させていただきます。

まずはじめに、2015年に策定しました「第2次健康知立ともだち21計画」ですが、令和元年の中間評価を経て、令和6年度までの10年間を計画期間としてきましたが、この度、最終年度を迎えるにあたり、これまでの取り組み等について最終評価を行いました。

「第2次健康知立ともだち21計画」では、第1次計画の最終評価方法と同様の方法で評価しています。全60の指標に対し、A「達成」B「改善」C「変化なし」D「悪化」－「判定不能」の5段階での評価です。一の「判定不能」というのは、設定した指標又は把握方法が策定時と異なることによるものになります。この評価方法に従い目標の達成状況をみていくと、全60の項目数のうち、A達成は6項目、B改善は20項目、C変わらないは7項目、D悪化は26項目、一判定不能は1項目でした。総括として、A達成は6項目、B改善は20項目で43%の改善傾向です。

各項目ごとにみていきます。最初は1「生活習慣を見直し健康を増進します」についてです。ここでは5項目ござい

ます。1は栄養・食生活についてです。評価指標の目標値と現状値より「朝食を欠食する人の割合の減少」は園児、児童、生徒、20歳代、40～64歳のすべての対象者で悪化しています。アンケート結果の分析を見ると、成人、小・中学生ともに、睡眠時間が少ないほど、朝食の欠食が多くなっています。

幼児期学童期は、健全な食生活を獲得・定着させる大切な時期です。また、これらを形成する子どもに対しては保護者の影響がとて大きいことから、保育園や学校と連携し、子供たちだけでなく、保護者に対しても朝食を摂ることだけでなく、睡眠時間が少ない人や就寝時間が遅い人に朝食を欠食している人が多く見られるため、早寝・早起き・朝ごはんの習慣づけに向けて取り組みを進めていきます。

「肥満者の割合」は、3歳児は目標を達成していますが、それ以外の年代において悪化しています。肥満は将来の健康に影響を及ぼすため、幼少期からの取り組みが重要です。

アンケート結果より、朝食を食べている人やよく噛んで食べている人は、そうでない人に比べて肥満の割合が低くなっているため、あらゆる機会を活用し、朝食摂取やよく噛むことの重要性を周知していきます。

次に2身体活動・運動についてです。①の表にある評価指標「運動習慣者の割合の増加」については、改善しています。アンケート結果より、男女ともに世代があがるほど概ね割合が高くなり、70歳代以上では、男女ともに5割以上となっています。また、運動習慣がない理由としては、「忙しい」、「めんどろ」、「きっかけがない」といった回答が多くなっているため、忙しい人でも気軽に組み入れるような運動プログラムを周知するなど、きっかけづくりと継続に向けた支援を行っていきます。

3休養・こころの健康についてです。①の表にある評価指標「睡眠による休養を十分に取れている人の割合」は改善、「ストレスを感じている人の割合」は悪化、「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる人の割合の増加」は達成となっています。こころの健康を阻害する過度のストレスの原因は様々ですが、相談できる人の存在やストレス解消方法があることは、ストレスの軽減につながります。ストレスを感じる人の割合は高くなっているため、気軽に相談できる体制づくりを進めていきます。

小中学生のスマートフォンやゲームなどのメディアの1日の使用時間と睡眠時間についてみたグラフですスマートフォン等の使用が睡眠時間に影響していると考えられることから、メディア（テレビ・スマホ・ゲーム）の適正利用に向けた啓発を進めていきます。

4喫煙・飲酒です。たばこは、吸っている本人だけでなく、周りにいる人にも健康被害をもたらします。喫煙が与える健康影響について普及・啓発を一層推進します。また、40歳～74歳の喫煙者の割合は増加傾向にあります。保健指導の場での禁煙支援や禁煙外来・相談窓口の紹介等の周知を進めることが重要です。

4つ目の評価指標であります「飲酒」ですが、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合が女性で増加しています。適正飲酒の量やアルコール飲料に対する正しい知識の普及・啓発を推進してまいります。

5歯・口腔の健康についてです。むし歯のない園児・児童・生徒は増加し目標達成しています。また、40歳の歯科健診受診者の割合も増加し目標達成しています。継続して歯及び歯周疾患の知識の周知・啓発、定期的な歯科健診の受診啓発など情報提供に努めていきます。

次に、「疾病の発症予防と重症化予防を徹底します」についてです。ここでは2項目ございまして、がんと循環器疾患・糖尿病があります。がんでは、大腸がん検診、肺がん検診、乳がん検診の受診率は増加し、胃がん検診、子宮がん検診の受診率は減少しています。がんの早期発見・早期治療に向けて、引き続きがん検診の重要性の周知・啓発を行っていきます。

次に循環器疾患・糖尿病になります。循環器疾患とは、血液を全身に循環させる臓器である心臓や血管などが正常に働かなくなる疾患のことで、高血圧や心疾患、脳血管疾患（急性心筋梗塞など）などがあります。評価指標にあります「脂質異常症の割合の減少」は改善傾向ですが、「高血圧の割合」は悪化傾向にあります。まずは、健診受診の勧奨を行うとともに、健診後の未治療者に対しては医療機関受診勧奨をし、適切な治療を受けることを進めていきます。

3社会で支える健康づくりを推進しますについてです。健康づくりは、個人だけの問題であると考えがちですが、住民相互のつながりの強い地域に住んでいる人ほど個人の持つ健康感が高いと言われています。評価指標である「過去1年間にボランティア活動に参加した人の割合の増加」は改善しています。

アンケート結果では、この1年間にボランティア活動に参加した人の割合は、男性の60歳代、70歳代以上、女性

の70歳代以上で高くなっています。一方、男性の40歳代、50歳代、女性の18・19歳、20歳代、30歳代では2割未満にとどまっています。若いころから地域活動に参加でき、家庭や職場以外での居場所ができるよう、情報発信や環境づくりをします。また、現存する食育知立（ともだち）の会員数や健康ボランティア数は減少し、健康推進員活動に参加する人も減少しています。それぞれの活動をPRし、会員数の増加、活動の育成・支援をしていきます。

事務局（資料に基づき、事務局より説明） 資料3

第2次食育推進計画最終評価報告書につきまして説明をさせていただきます、説明させていただきに修正をお願いします。

修正箇所は、13ページ1行目にあります「小学5年生、中学2年生では4割台となっています。」とあります。が正しくは3割台となります。「第2次食育推進計画」は、健康知立ともだち21計画と同じく2015年に策定し、令和6年度までの10年間を計画期間とし、最終年度を迎えるにあたり最終評価を行いました。

「第2次食育推進計画」では、健康知立ともだち21計画と同様の方法で評価しています。

全19指標のうち、「A達成」3項目、「B改善」は4項目、「C変化なし」は6項目、「D悪化」は5項目、「判定不能」は1項目でした。

各分野ごとの目標達成状況と今後の方向性についてみていきます。まず、食育で心を育もうについて「1食育に関心を持っている人」の割合は変化がありませんでした。「食育を実践している人」の割合は増加しており、改善という結果になっております。「家での食事を楽しいと感じる人の割合」については、小学校、中学校ともに割合が増加し、目標値の達成となりました。食育に対する関心度は男性の方が低い傾向にあります。また、食育の実践度は、若い人で低い傾向にあります。また、食育に関心がある人ほど生活改善に取り組んでいる人が多くなっています。引き続きあらゆる世代へ食育に関心を持ち、実践できる人が増えるよう情報提供等行っていきます。家での食事を楽しいと感じる小中学生の割合は、朝食、夕食ともに共食の頻度が多い人ほど家での食事が楽しいと感じる人の割合が多くなっています。共食は、心を育むためにとても重要です。引き続き家族や仲間と食を楽しむことの重要性を周知していきたいと思えます。

続いて「2食育でからだを育もう」の分野についてです。朝食を欠食する人の割合はすべての年代において悪化という結果でした。朝食に野菜を食べている人の割合は園児は前回のアンケートと設問内容を変えたため判定不能、その他の年代で変化なしという結果でした。よく噛んで食べる人の割合は、全ての年代で目標値には達していませんが、改善がみられました。朝食は若い世代で欠食する人が多い結果でした。朝食を毎日食べている小中学生の割合は約8割、園児は約9割となっており、一定程度欠食があることがわかります。朝食の欠食については、県や国においてもほぼ改善が見られず、改善が難しい項目ではありますが、引き続き朝食の重要性を啓発していきます。朝食とBMIの関係を見ると朝食を食べている人ほど「肥満」の割合が低くなっています。睡眠時間と朝食の摂取状況をみると、成人、小中学生とも睡眠時間が少ない人の方が朝食を欠食していることがわかります。園児の就寝時間別にみた朝食の摂取状況では、就寝が遅い人ほど朝食を食べる割合が低い結果でした。また、朝食で野菜を摂取している人は全体的に少ないですが、若い世代になるにつれて少なくなっていることがわかります。小中学生では3割台、園児は約2割という結果でした。朝食に野菜を食べている人を世帯別でみると、二世帯、三世帯の世帯で低くなっています。

生活習慣病予防や健康寿命の延伸のために小さいころから望ましい食生活を身につけることができるよう、適切な睡眠時間をとり、朝食の摂取をすること、また、野菜の調理には時間がかかり、摂取が難しいという面もあるため、手軽に摂れる野菜料理等啓発を行っていきます。全世代において栄養バランスの良い食生活を身につける。

続いて「2食育でからだを育もう」の分野についてです。朝食を欠食する人の割合はすべての年代において悪化という結果でした。朝食に野菜を食べている人の割合は園児は前回のアンケートと設問内容を変えたため判定不能、その他の年代で変化なしという結果でした。よく噛んで食べる人の割合は、全ての年代で目標値には達していませんが、改善がみられました。朝食は若い世代で欠食する人が多い結果でした。朝食を毎日食べている小中学生の割合は約8割、園児は約9割となっており、一定程度欠食があることがわかります。朝食の欠食については、県や国においてもほぼ改善が見られず、改善が難しい項目ではありますが、引き続き朝食の重要性を啓発していきます。朝食とBMIの関係を見ると朝食を食べている人ほど「肥満」の割合が低くなっています。睡眠時間と朝食の摂取状況をみると、成

人、小中学生とも睡眠時間が少ない人の方が朝食を欠食していることがわかります。園児の就寝時間別にみた朝食の摂取状況では、就寝が遅い人ほど朝食を食べる割合が低い結果でした。また、朝食で野菜を摂取している人は全体的に少ないですが、若い世代になるにつれて少なくなっていることがわかります。小中学生では3割台、園児は約2割という結果でした。朝食に野菜を食べている人を世帯別でみると、二世帯、三世帯の世帯で低くなっています。

生活習慣病予防や健康寿命の延伸のために小さいころから望ましい食生活を身につけることができるよう、適切な睡眠時間を取り、朝食の摂取をすること、また、野菜の調理には時間がかかり、摂取が難しいという面もあるため、手軽に摂れる野菜料理等啓発を行っていきます。全世代において栄養バランスの良い食生活を身につけることができるよう効果的なアプローチを検討していきます。咀嚼の状況を見ると、成人では40歳代、50歳代で低い傾向にあります。小中学生では、中学生の方が低い結果でした。咀嚼とBMI・肥満度の関係では、よく噛んでいる人は噛んでいない人に比べて「肥満」の割合が低い傾向にあります。

よく噛むことは全身の健康につながります。今後も各機関と連携し、咀嚼の大切さについて周知を行っていきます。次に「3食を取り巻く環境を整えよう」の分野についてです。現：食育ともだちの会員数は減少しており、悪化となっております。食育ともだちの会は、地域に密着した食育活動を行って下さっております。今度も会員の増加に向け、養成講座を定期的実施していく予定です。次に、学校給食における愛知県産の食材使用率は目標を達成しています。愛知県産のものを意識して購入する人の割合は変化なしでした。引き続き地産地消を推進し、また食品ロス削減やごみの減量に向けて市民の意識を向上させるための取組を進めていきます。以上で第2次食育推進計画最終評価報告を終わります。

食育に関心を持っている人」の割合は変化がありませんでした。「食育を実践している人」の割合は増加しており、改善という結果になっております。「家での食事を楽しいと感じる人の割合」については、小学校、中学校ともに割合が増加し、目標値の達成となりました。

4ページをご覧ください。食育に対する関心度は男性の方が低い傾向にあります。また、食育の実践度は、若い人で低い傾向にあります。5ページをご覧ください。食育に関心がある人ほど生活改善に取り組んでいる人が多くなっています。引き続きあらゆる世代へ食育に関心を持ち、実践できる人が増えるよう情報提供等行なっていきます。

次に、「家での食事を楽しい」と思う人の割合は小学校5年生、中学校2年生とも達成しております。

6ページをご覧ください。家での食事を楽しいと感じる小中学生の割合は、朝食、夕食ともに共食の頻度が多い人ほど家での食事が楽しいと感じる人の割合が多くなっています。共食は、心を育むためにとても重要です。引き続き家族や仲間と食を楽しむことの重要性を周知していきたいと思えます。

続いて、8ページをご覧ください。2、食育でからだを育もう の項目についてです。朝食を欠食する人の割合はすべての年代において悪化、朝食に野菜を食べている人の割合は園児は前回のアンケートと設問内容を変えたため判定不能、その他の年代で変化なしという結果でした。よく噛む事については改善という結果になっております。

9ページをご覧ください。朝食は若い世代で欠食する人が多い結果でした。10ページにおいては、朝食を毎日食べている小中学生の割合は約8割、園児は約9割となっており、一定程度欠食があることがわかります。朝食の欠食においては県や国でも同様の結果となっておりますが、引き続き朝食摂取について啓発を行ってまいります。下のグラフ朝食とBMIの関係を見ると朝食を食べている人ほど「肥満」の割合が低くなっています。

次に11ページの睡眠時間と朝食の摂取状況を見ると、成人、小中学生とも睡眠時間が少ない人の方が朝食を欠食していることがわかります。12ページをご覧ください。園児の就寝時間別にみた朝食の摂取状況では、就寝が遅い人ほど朝食を食べる割合が低い結果でした。また、朝食で野菜を摂取している人は全体的に少ないですが、若い世代になるにつれて少なくなっていることがわかります。小中学生では3割台、園児は約2割という結果でした。朝食に野菜を食べている人を世帯別でみると、二世帯、三世帯の世帯で低くなっています。

生活習慣病予防や健康寿命の延伸のために小さいころから望ましい食生活を身につけることができるよう、適切な睡眠時間を取り、朝食の摂取をすること、また、野菜の調理には時間がかかり、摂取が難しいという面もあるため、手軽に摂れる野菜料理等啓発を行っていきます。全世代において栄養バランスの良い食生活を身につけることができるよう効果的なアプローチを検討していきます。

14ページをご覧ください。よく噛んで食べる人の割合は、全ての年代で目標値には達していませんが、改善がみら

れました。咀嚼の状況を見ると、成人では 40 歳代、50 歳代で低い傾向にあります。小中学生では、中学生の方が低い結果でした。咀嚼とBMI・肥満度の関係では、よく噛んでいる人は噛んでいない人に比べて「肥満」の割合が低い傾向にあります。

よく噛むことは全身の健康につながります。今後も各機関と連携し、咀嚼の大切さについて周知を行っていきます。

次に 16 ページ 3、食を取り巻く環境を整えようの項目についてです。

現：食育ともだちの会会員数は減少しており、悪化となっております。食育ともだちの会の活動は、知立市の食育にとても重要な役割を果たしています。今度も会員の増加に向け、養成講座を定期的に実施していく予定です。

次に、学校給食における愛知県産の食材使用率は目標を達成しています。愛知県産のものを意識して購入する人の割合は変化なしでした。引き続き地産地消を推進し、また食品ロス削減やごみの減量に向けて市民の意識を向上させるための取組を進めていきます。

以上で第 2 次食育推進計画最終評価報告を終わります。

会 長 学校給食でキムチが出て、アレルギーが出たといって受診した子がいた。
子どもにキムチは食べさせなくていいんじゃないかと思うので、ここで言わせていただきました。

事 務 局 ご意見は他課にも見ていただくので、担当課に付させていただきます。
説明が終わりましたのでご質問等ありましたら発言をお願いします。

事 務 局 （資料に基づき、事務局より説明） 資料 4

当事業は高齢者の特性を踏まえ、健康づくりと介護予防を一体的に実施していくことで、健康寿命の延伸と生活の質の向上を目指しており、令和 3 年度から開始しております。

知立市の 75 歳以上の健康課題をみていくと、医療費における外来レセプト件数においては主だったものとしては慢性腎臓病が直近 3 年国、同規模自治体、国よりもかなり多い状態が続いています。また入院レセプト件数においては主だったものとしては脳梗塞、骨折、

慢性腎臓病が国、同規模自治体、県より多くなっており、直近 3 年この状況が続いているのは脳梗塞、骨折となっています。慢性腎臓病や糖尿病に関連するものとして、糖尿病の合併症、人工透析関連の患者数についても、腎臓の機能低下、人工透析の原因となる糖尿病性腎症が非常に多く、それに伴って人工透析も多い状況です。

事業の評価結果は資料のとおりで、ハイリスクアプローチの低栄養については広報記事に掲載のとおり、低栄養リスクの高い方は参加後に体重増加、栄養状態の改善がみられています。経年的にみても、参加した方は参加していない方と比べて翌年度の 1 人あたりの年間入院医療費、年間介護給付費は少ないといった結果がみられており、疾患の重症化予防や介護予防につながっています。

ハイリスクアプローチの口腔指導についても、飲み込みやむせに課題がある方も症状が改善、清潔度は全員が参加後に改善し、また特にパと力の発声回数が改善になっています。

力は本人の意識により改善が見込める項目で、ここが改善することによりむせの予防、誤嚥性肺炎の予防につながってきます。

ハイリスクアプローチの糖尿病性腎症重症化予防について、血糖、腎機能の維持・改善割合は、どちらも 60% 以上といった結果となり、参加前より参加後は重症化予防に向け多くの取り組みを行うなど、生活習慣の改善に向けて、意識が変わり行動も変わるといった傾向がみられました。

今後は糖尿病性腎症重症化予防事業の対象者拡大、健康状態不明者対策の実施などの新たな取り組みを進めていきます。

会 長 説明が終わりましたのでご質問等ありましたら発言をお願いします。

会 長 11 ページのハイリスクアプローチの重症化予防の対象者は何人ですか？

事 務 局	記載している内容として合計３名だが、糖尿病専門医に受診して保健指導をしてもらっている人を入れると、実際には６名ほどであった。
会 長	75 歳以上とくくっているが、知立市は高齢者が多くて、そうなって当然といったことはないのか？圧倒的に骨折は多いが、原因は分かっているのか？
事 務 局	人口構造が県と大きく違うという事はない。データがコロナの真っ只中ということもある。
事 務 局	若い時の骨密度をあげることや、栄養状態の改善などがあるため、対策を取っていききたい。
会 長	「骨折」と多くの骨があるが、どこの骨かは分からないのか。骨折と骨粗鬆症との合併率をみるなどしてはどうか。
事 務 局	研究までは難しいと思うが、検討していききたい。
事 務 局	（資料に基づき、事務局より説明） 資料５ 当計画は、2019（平成31）年3月に、市民のこころの健康づくりをはじめ、自殺対策に関する施策を総合的・計画的に推進するため2019（令和元）年度から2024（令和6）年度までの5年間を計画期間とする「知立市こころ応援計画」を策定しました。 3ページの目次の第一章にエラー！参照するデータが見つかりません、と出てしまっていますが、こちらは早急に修正させていただきます。会議資料に間に合わず大変申し訳ございません。 それでは説明に入らせていただきます。最終評価報告書の4ページ目をご覧ください。こちらは計画全体の目標達成状況を示しています。本市においては、計画最終年である2024年（令和6年）の自殺死亡率を14.4以下にすることを目標としていました。令和4年における実績値は13.4*となっており、目標値に達しています。 6ページ目の表をご覧ください。知立市こころ応援計画に掲げた評価指標の達成度を表した表です。計画のうちほとんどの指標が改善や達成ができたことを示しています。 7ページ目からは、分野ごとの目標達成状況と今後の方向性を記載しています。施策1の自殺対策におけるネットワークの強化においては、当会議である保健対策推進会議、こころ応援対策推進本部会議の会議の開催回数を目標とし、両指標とも達成することが出来ました。その他様々な会議において自殺に関する情報提供や相談窓口の啓発・周知を実施することができました。 11ページ目をご覧ください。施策2の自殺対策を支える人材育成の強化においては、12ページにあるような様々な関係機関、会議体等を通じて研修の周知を実施し、ほとんどの評価指標について達成となっている状況ですが、「ゲートキーパー研修（市職員）の参加率はまだまだ目標値には遠く、13ページのアンケート結果の分析のとおり市民の認知度はまだ低い状況にあります。引き続きゲートキーパーの周知を図るとともに、研修を実施し、ゲートキーパーの育成を進めていきます。また、より多くの人に受講してもらえるよう、開催時期や周知方法を工夫していきます。 15ページをご覧ください。施策3の市民の啓発と周知においては、各種ガイドブック等や広報、チラシ配布を通して相談窓口を周知・啓発しました。こども・若者向けに対しては若者向けの相談窓口一覧のチラシやクリアファイルを作成し、多くの若年層の方に啓発しました。働く世代へのアプローチとしては、こころの不調のサイン及び相談先を掲載したステッカーを配布し市内企業へ周知しました。その結果、評価指標である相談窓口を知っている人の割合は策定時より大幅に増加し目標値に達しています。 19ページをご覧ください。施策4の生きることへの促進要因への支援においては、自殺リスクの低下に向けて、様々な問題を抱えている人や生きづらさを感じている人、その家族に対し、生きることの阻害要因を減らし、生きることの促進要因を増やすための相談や支援等様々な取組を行ってきました。また、様々な世代で交流の促進や生きがいづくり、居場所づくりにつながる事業の実施や活動の支援を実施しました 世帯構造や家族形態の変化、地域や人間関係のつながりの希薄化等により、住民からの相談も多岐にわたり、生活上の悩み・問題は複雑化・複合化している傾向にあるため、他課・他機関との連携を深め、より細やかな支援を行ってい

きたいと思います。

23ページをご覧ください。

施策5の子ども・若者への自殺対策においては、市内各小中学校にスクールカウンセラー、心の相談員を配置して、児童・生徒の相談に応じました。また、全ての妊婦、子育て家庭に対して、妊娠期から相談支援を開始し切れ目なく支援を行ってきました。学童期においては今後も学校と連携し、気軽に相談できる体制づくり、SOSを出せる環境づくりを進めるとともに、教員の資質の向上、子どもの居場所づくりの取組も進めていきます。

会 長 説明が終わりましたのでご質問等ありましたら発言をお願いします。

会 長 以上で、協議事項（2）各計画の最終評価についてを終了します。

各計画で共通することは、規則正しい生活により生活習慣病予防やこころの余裕、ストレスの軽減、フレイルの予防につながると思います。

会 長 それでは、次に報告事項1「新型コロナウイルスワクチン接種事業の現状及び今後の取り組みについて」事務局より説明をお願いします。

事 務 局 （資料に基づき、事務局より説明） 資料6

令和3年2月から開始となりました特例臨時接種につきましては、今年度末で終了することとなります。

1回目接種率80.8%および2回目79.9%と多くの人が接種されましたが、3回目以降接種者が減少している状況です。

令和5年5月8日から開始した春開始接種については追加接種の人の場合65歳以上、5歳以上の基礎疾患のある人、医療従事者等と限定されておりました。

その中でも接種勧奨を行った65歳以上の高齢者は46.9%にとどまりました。

令和5年9月20日から開始した秋開始接種においては追加接種は生後6か月以上のすべての人が対象でしたが、同じく接種勧奨を行った65歳以上の受診率は40.9%となっております。

予約方法につきましては窓口、コールセンター、WEB予約を行いコールセンターは外国語対応も実施いたしました。今後のワクチン接種につきましては重症化予防により重症者を減らすことを目的とし定期接種として実施となり、65歳以上の年齢、60歳～64歳の一部対象になる人においては季節性インフルエンザワクチンと位置づけが同じとなる見込みです。

会 長 コロナワクチンについては最初は色々言われていたが、次回から不活化ワクチンとして接種が開始となるのではないかとされている。

委 員 資料2の歯・口腔の健康32ページの項目で、今後の取り組みについて記載があるが、歯周病予防対策を主体的に行っていくという事でいいのか。高齢者も口腔機能低下を予防するということか。定期健診で歯周病さえ押さえれば、いいということか。歯周病をもう少し前に出して啓蒙すると良いと思うが。

事 務 局 来年度から20歳30歳も追加し、かかりつけ医をもって早期発見早期治療を行うことを目的としている。令和6年度は歯科講話を予定している。

会 長 糖尿病性腎症は多いのに、糖尿病のレセプト数は少ないというのはどういうことか。

骨折や脳梗塞の患者を入院させる医師もいれば、家で診ましようという医師もいる。そのあたりが分からないので、このデータを信じていいのか。

事務局 外来件数でみると、糖尿病のレセプト件数は多いことは確か。
統計的なデータとして多いということを見ていただければと思う。

市長 ５ページ糖尿病性腎症が多いのはなぜだと思うか。

会長 糖尿病性腎症と診断した人数が多ければ、入院患者が多くないとおかしくないかと思うが

市長 また宿題にさせていただきます。

会長 以上で、報告事項１「新型コロナウイルスワクチン接種事業の現状及び今後の取り組みについて」を終了します。

会長 最後の「その他」ですが事務局、何かありますか。用意された議題は終わりましたが、委員の皆様から、その他ご意見ご質問があれば、いかがですか。

委員 資料２で３７ページ社会で支えるという箇所はコロナが原因という事もあるため伸び悩んでいるという事もあるのではないかと。集まったりすることが難しかったという事も報告書に記載はないが理由としてはあるのではないかと。朝食の欠食は無くしたいという事で０％が目標なので、Ｄとなってしまふ。戦略的なものとして、職場や学校で食べる事などもあるため、家庭で食べるという事を脱することもひとつではないかと思う。

委員 今回の会議で出た様々な結果についてこれをどう分析していくかが大変な事だと思う。市、県、同規模、国などと比較しているが、近隣市町などとも比較していけると良いと思う。分析に時間や力がかかると思うが、今後各所の協力のもと知立市の健康に関する項目が前進するよう祈っています。

会長 他になれば、本日の会議は、これで終了させていただきたいと思います。
本日は、長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

事務局 今年度は２回の会議を開催いたしました。ご審議を賜り誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。来年度は次期計画策定に向けたご意見をお伺いさせていただきたく、本会議につきましては４回実施予定となっております。来年度１回目は５月に開催を予定しておりますのであらためて４月頃にご案内させていただきます。その節はよろしく願います。お気づきの点がございましたら、いつでもご指導くださいますよう、今後ともよろしくお願いいたします。